

kyndryl.

クラウド上のエンタープライズ 向けアプリでデジタル変革を 加速する

エンタープライズ向けアプリケーションをマルチクラウド環境に移行するリスクとメリットを理解しましょう



- 2 デジタル変革では、不可欠なワークロードと不可欠でないワークロードの両方をクラウドに移行する必要がある
- 3 調査方法

多くの企業にとって、マルチクラウドは強まっていく現実

マルチクラウド環境でビジネスに不可欠なワークロードを実行するメリット
- 4 ハイブリッド・マルチクラウド環境の課題
- 5 インフラストラクチャー全体での単一ビューの重要性
- 6 サービス・プロバイダーを利用してパブリッククラウド上で非SaaSアプリケーションを管理することのメリット
- 7 不可欠のアプリケーションをクラウド環境に移行することの価値

Kyndrylをお勧めする理由

デジタル変革では、不可欠なワークロードと不可欠でないワークロードの両方をクラウドに移行する必要がある

多くの企業は、顧客向けアプリケーションを移行し、クラウドネイティブ・アプリケーションを採用することからクラウド・ジャーニーを始めました。クラウドに最初に移行されたワークロードは、より簡単にデプロイできるワークロードであったため、このアプローチは理にかなっています。しかし、これらのアプリケーションは、企業が実行する全体のほんの一部にすぎません。実際、クラウドに移行したのはすべてのワークロードの20%のみです。¹ デジタル変革を完全なものにするには、企業はクラウド導入の第2段階に入る必要があります。つまり、ハイブリッド・マルチクラウド環境でクラウド・ネイティブのフロントオフィスとバックオフィスのアプリケーション（エンタープライズ・リソース・プランニング・システムなど）を有効にして統合する必要があります。

ハイブリッドクラウド運用モデルを基幹業務のアプリケーションに導入することで、企業は顧客、サプライチェーン、販売、マーケティングのデータをより効果的に利用して、顧客、従業員、パートナーに新しいアプリケーションとサービスを提供できます。マルチクラウド環境は、アプリケーションを最適化し、適切なワークロードを適切なクラウド・プロバイダーに適合させる機能を提供します。ただし、マルチクラウド環境は複雑になる可能性があり、展開し管理するために追加のスキルやリソースが必要になります。ITリーダーは、エンタープライズ向けアプリケーションにマルチクラウド戦略を採用することのリスクとメリットを理解する必要があります。

調査方法

最近実施された、IBM® Market Development & Insights (MD&I) 調査では、複数のクラウド間で非SaaSエンタープライズ向けアプリケーションを移行し管理することの課題とメリットについて、より深く理解することを追求しました。MD&Iは、204人のビジネスおよびテクノロジーのリーダーを調査しました。回答者のうち、58%が最高情報責任者 (CIO)、最高技術責任者 (CTO) で、39%がITディレクターまたはITマネージャーでした。回答者の60%は、マルチクラウド環境を利用していると答えました。その他の40%は、マルチクラウド環境を採用する計画があると回答しました。これらの組織のほとんどは、マルチクラウドは、企業がコストを節約し、柔軟性や拡張性を改善できる点において、エンタープライズ向けアプリケーションにとってメリットがあると考えています。しかし、これらの組織は、複雑さの増加や、一貫した管理、既存のプラットフォームの統合など、結果として生じる課題も認識していました。ほとんどの回答者は、IT管理の成功には、ハイブリッド・マルチクラウド資産のモニタリングと管理のための単一ビューが必要だと指摘しました。

多くの企業にとって、マルチクラウドは強まっていく現実

今後3年間で、企業の98%がマルチクラウド・アーキテクチャーの採用を計画しています。しかし、シャドーITの成長とITインフラストラクチャーの部分的な移行の結果として、多くの企業は既にマルチクラウド・アプローチを使用しています。² 従業員は、日常業務を簡素化し、通常の調達プロセス以外でソリューションを探そうとし、これが、企業のコストとリスクを増大させます。さらに、ハイブリッド・マルチクラウド環境で運用するための適切な手順とツールを導入している組織はわずか38%です。² インストールされたハードウェアと顧客向けアプリケーションはクラウドに移行しましたが、SAPやOracleアプリケーションなどの一部のワークロードは何年にもわたってオンプレミスで管理されており、この移行はより脅威的なものになっています。イノベーションを継続し、ビジネスの俊敏性を高め、競争上の優位性を獲得するために、組織は、これらの不可欠なアプリケーションをクラウドに移行することを含むデジタル変革戦略を必要としています。

マルチクラウド環境でビジネスに不可欠なワークロードを実行するメリット

大手企業は、ビジネスに不可欠なワークロードをハイブリッド・マルチクラウド・モデルに移行することの価値とそれに伴う複雑さを正当に評価しています。インストールされたアプリケーションを移動することにより、組織はより優れた拡張性、コスト削減、および柔軟性を体験できます。



拡張性

複数のクラウドからリソースにアクセスすることで、マルチクラウド環境を使用するITリーダーの44%は、拡張性の向上を期待しています。³ エンタープライズ向けアプリケーションを拡張する機能の向上により、企業は競争圧力に迅速に適応できます。マルチクラウド環境は、独自の戦略と目的に基づいて、クラウド内でワークロードを最適な場所で実行する機能を提供しません。適切なマルチクラウド管理プラットフォームを使用すると、リソースをより効果的に、まとめてプライベートとパブリックの両方のクラウドを管理できます。



コスト削減

主要なIT企業のうち、現在マルチクラウド環境を使用している49%は、より低いコストを実現しています。³ クラウド・インフラストラクチャーでは、必要なコンピューティング能力に対してのみ料金を支払うことや、設備投資 (CAPEX) から運用コスト (OPEX) にシフトすることにより、コストを低減できます。企業は、ハイブリッド・マルチクラウド・インフラストラクチャーと適切なベンダーを利用して、不可欠なワークロードに対するクラウド支出を削減できます。



柔軟性

特定のワークロードに適したベンダーを選択できる能力を持つことは、マルチクラウドのユーザーの43%にとってメリットです。³ ベンダーの柔軟性には、コスト削減以外にも、単一のクラウド・ベンダーでは不可能な方法でアプリケーション・ポートフォリオを拡大または変更できるというメリットがあります。マルチクラウド・アプローチを使用すると、機能に基づいてベンダーをワークロードに適合させ、単一のクラウド・ベンダーの制限を回避できます。実際、現在複数のクラウドを使用している組織の44%は、ベンダーロックインを回避することでメリットが得られることを示しています。³

ハイブリッド・マルチクラウド環境の課題

ハイブリッド・マルチクラウド環境の複雑さは、デジタル変革の主要な阻害要因の1つであり、企業はさまざまなインフラストラクチャー全体で従来の環境とクラウド環境を管理するのに苦闘しています。SAPやOracleなどのビジネスに不可欠なアプリケーションは、ビジネス全体で主要な機能を統合するため、これらのワークロードをクラウドにシームレスに移行することが組織の成功にとって不可欠です。付加された複雑さ、社内管理スキルとツールの欠如、不整合の可能性は、企業にとって重要な課題です。

複雑さが増す

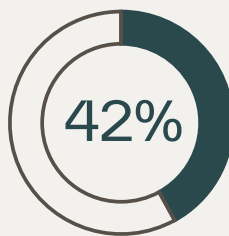
複数のクラウド・ベンダーと協力は、ベンダー・ロックインの回避に役立ちますが、これらの企業の42%は、複雑さが増す可能性があると感じています。⁴ 組織がクラウド全体のシステムに必要なマネージド・アプリケーションとエキスパートの数を増やすにつれて、日常の運用やデータのパターンや傾向の特定などの高度な機能がより複雑になる可能性があります。

社内管理スキルとツールの欠如

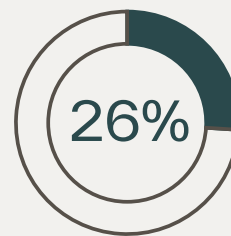
信頼性が高く即応性の良いITを提供するには、組織は複数のクラウド・インフラストラクチャーとアプリケーションにわたってトレーニングされたリソースを必要とします。社内でマルチクラウド環境を管理するための熟練した人材を見つけ、採用し、トレーニングし、確保することは、クラウドの使用を計画している組織の43%にとっての主要な課題です。³ この課題は、企業が従来の環境とクラウド環境全体でアプリケーションを統合する能力を制限し、ユーザーの満足度に悪影響を及ぼし、リスクを高め、社内外のお客様に対するITの即応性を低下させる可能性があります。

マルチクラウド環境を現在使用している組織と計画中の組織では、適切な人材を見つけるという課題について見解が異なります。マルチクラウド環境の使用を計画している組織の43%は、社内のクラウド・スキルの欠如を主要な課題と見なしていますが、既に対応している企業で同じ懸念を抱いているのは18%にすぎません。⁴ この違いは、現在マルチクラウド環境に対応しているユーザーは、社内リソースの採用に成功したか、サードパーティーにアウトソーシングしたかのいずれかであろうという推測されます。

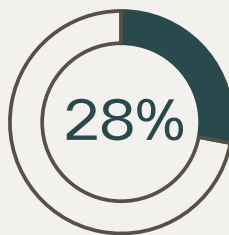
図1. マルチクラウド環境でエンタープライズ向けアプリを実行する際の主な課題：複雑さ



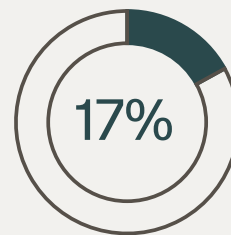
複数のベンダーで複雑さが増す



さまざまなサービスレベル契約 (SLA) と契約条件の管理



従来のプラットフォームの統合



どのアプリがどのクラウドで実行されているかの認知

図2. マルチクラウド環境でエンタープライズ向けアプリを実行する際の主な課題：スキル・ベース

社内スキルの欠如

現在、マルチクラウド対応

18%

マルチクラウドを計画中

43%

マルチクラウドでのセキュリティとコンプライアンスの課題

複数のベンダーを管理する複雑さが増すと、セキュリティとコンプライアンスの維持が困難になる可能性があります。現在マルチクラウドを使用している企業の41%はセキュリティが課題であると示しており、マルチクラウドの使用を計画している調査対象組織の24%は、コンプライアンスの維持が課題であると述べています。³

複数のクラウドにわたってセキュリティとコンプライアンスをモニターする統制されたアプローチがないと、ITリーダーは、計画外のシステムのダウンタイムや、お客様の信頼の低下、消費者データのプライバシー違反による罰金を経験することになるでしょう。複数のクラウドにわたってエンタープライズ・アプリケーションを管理するには、統合された組み込み型のセキュリティが不可欠です。

不整合の可能性

ハイブリッド・マルチクラウド環境での一貫性のニーズは、お客様にとって1つの課題であり、調査対象企業の36パーセントが、複数プラットフォーム間での一貫した管理が課題であると答えています。組織の約39%が、マルチクラウド・インフラストラクチャーで非SaaSアプリケーションを実行する際の主要な課題として、アプリケーションに対する単一のビューを持つことと述べています。³ しかし、チームはどのようにしてこの単純化されたビューをより効果的に提供できるでしょう？

インフラストラクチャー全体での単一ビューの重要性

プラットフォーム間での不整合、コストの管理不能、セキュリティとコンプライアンスのリスクは、組織の運用効率を低下させる可能性があります。ベンダー全体での単一のビューが役立ちます。10社中7社が、パブリッククラウド全体でアプリケーションの単一ビューを持っていることが重要であると述べています。³ 驚くべきことに、単一ビューの中央コンソールを持っているのは、マルチクラウド・ユーザーの42%だけです。⁴ アプリケーションの単一ビューを使用する企業は、効率の向上、コストの改善、パフォーマンス管理の効果の向上などのメリットを享受し、単一ビューの欠如はクラウド・プロバイダー全体の可視性に影響を与えます。

回答者の70%は、パブリッククラウド全体でエンタープライズ向けアプリケーションの単一のビューを持つことが重要であると考えています。³

図 3. マルチクラウド環境でエンタープライズ向けアプリを実行する際の主な課題

セキュリティ

現在、マルチクラウド対応

41%

マルチクラウドを計画中

34%

コンプライアンスの維持

現在、マルチクラウド対応

20%

マルチクラウドを計画中

24%

図 4. マルチクラウド環境でエンタープライズ向けアプリを実行する際の主な課題：一貫性

統合されたビューを持つ

現在、マルチクラウド対応

39%

マルチクラウドを計画中

30%

一貫性のある管理を提供する

現在、マルチクラウド対応

36%

マルチクラウドを計画中

44%

サービス・プロバイダーを利用してパブリッククラウドでエンタープライズ向けアプリケーションを管理することのメリット

現在のマルチクラウド・ユーザーは、多くの場合、責任の所在が単一であることをメリットとして挙げています。³ マルチクラウド・プロバイダー間で透明性を実現するのは簡単ではありませんが、単一のベンダーが基幹業務のワークロード全体の可視性をチームに提供し、反復可能な標準の開発を支援し、クラウドの使用と支出を最適化することができます。

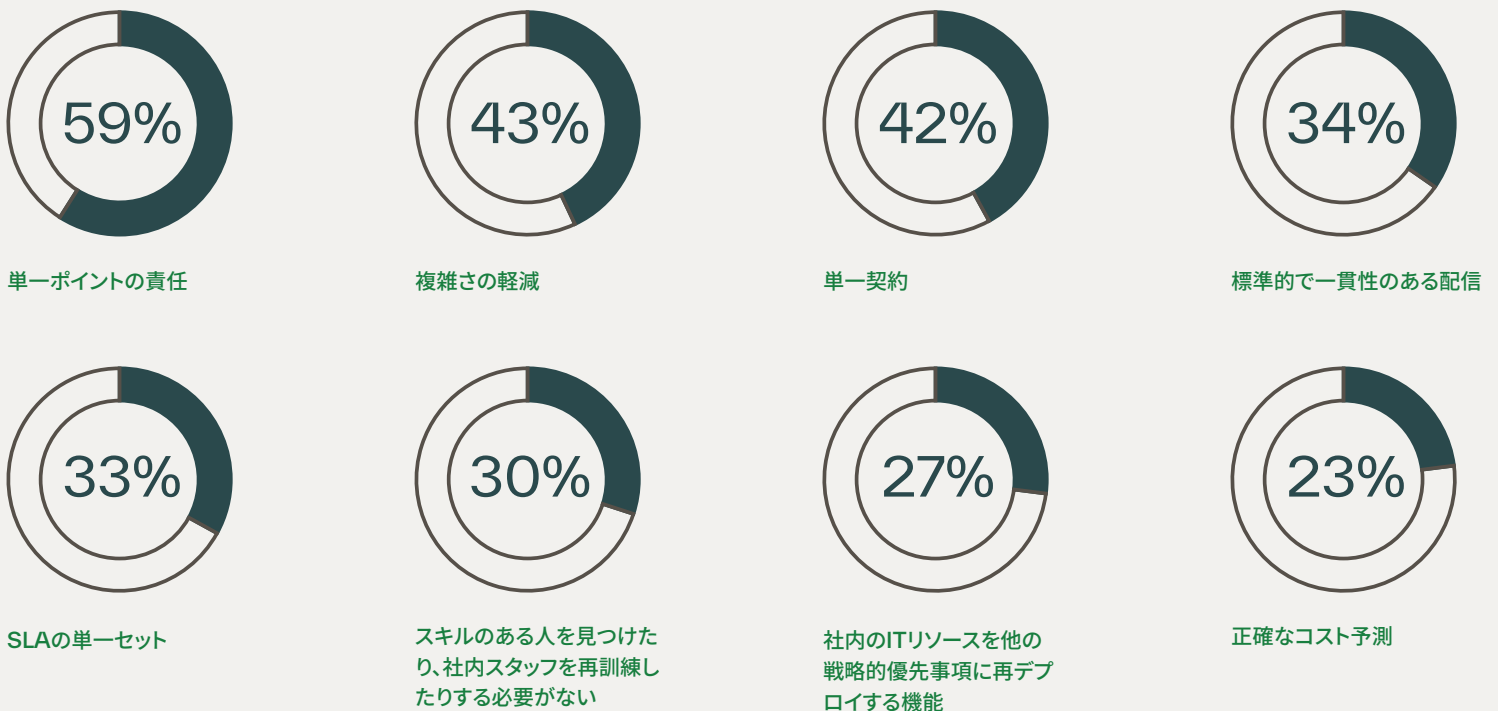
可視性が得られると、複数のパブリッククラウド・ベンダーを管理することが課題となる可能性があります。クラウドの展開を可能にする適切なアーキテクチャーを定義することの難しさ、複数のクラウドに伴う複雑さの管理、および社内スキルの欠如は、企業にフラストレーションを感じさせる可能性があります。クラウド・プロバイダーを社内で管理している企業もあれば、サードパーティーに支援を依頼している企業もあります。ITリーダーの63%は、サードパーティーにパブリッククラウド全体でエンタープライズ向けアプリを管理させることに関心を示しており、約55%は、パブリッククラウド全体で非SaaSアプリケーションを管理するために少なくとも1つのサービスプロバイダーを利用しています。³

単一のプロバイダーを検討する場合、4人に3人の企業リーダーが、単一のベンダーにワークロードを管理させることの最大の欠点としてベンダーのロックインを挙げています。³ しかし、単一のベンダーはマルチクラウド管理を簡素化し、透明性、柔軟性、予測可能性を生み出すことができ、これによりベンダーのロックインを回避できます。単一のベンダーを利用することで、企業の30%は社内スタッフを再トレーニングする必要性を減らし、27%は他の戦略的優先事項にリソースを再配置することができました。³ 最終的に、単一の責任ポイントは、組織の効率を高めるのに役立つ、簡素化された、一貫性のあるユーザー・エクスペリエンスを提供します。

デジタル変革の影響を加速する

ITインフラストラクチャーの進化を計画する場合、ITリーダーの89%が人工知能 (AI) とアナリティクスの使用を計画し、83%がモノのインターネット (IoT) の使用を計画し、59%がブロックチェーンの使用を計画しています。³ マルチクラウドのインフラストラクチャーにこれらのテクノロジーを効果的に実装すると、日常業務を根本的に変え、スマート・データの使用を通じて競争上の優位性を深めることができます。戦略的策定と実行は難しい場合があります。組織によっては、自社のビジネスを理解してくれ、かつ、データ分析やワークフローの自動化、顧客体験、資産活用の最適化を理解している統合のエキスパートに価値を見出しています。適切なワークロードに適切なクラウドを選択する能力が不可欠であり、シンプルな管理、セキュリティ、ガバナンス、データ活用を機会を生み出すことができます。適切なガイダンスにより、組織はAIとアナリティクスのメリットを確実に享受でき、拡張する能力を高めることができます。

図 4. 現在マルチクラウド環境を使用している企業にとっての単一ベンダー管理のメリット



不可欠なアプリケーションをクラウド環境に移行することの価値

デジタル変革のジャーニーを通して、企業は、適切なマルチクラウド戦略と実装によってビジネス成果を高めることができます。柔軟なハイブリッド・マルチクラウド・モデルは、管理されたアプリケーションとクラウド・プロバイダーへのアクセス制御を提供して、コストへの可視性を高め、組み込み型のセキュリティ機能でリスクを軽減できます。ワークロードを最適なクラウド・インフラストラクチャーに適合させることで、クラウドの導入をより効率的に最適化できます。クラウド・プロバイダーとインフラストラクチャー間のアプリケーションの単一ビューは、複雑性を管理し、洞察を高め、AIなどの技術的なメリットにより投資収益率 (ROI) を高めるのに役立ちます。不可欠なエンタープライズ向けアプリケーションをクラウドに移行し、これらのリソースを管理するには、頻繁な再トレーニングを必要とする、専門的で需要の高い人材が必要です。その結果、多くのITリーダーは、複雑さの管理を支援するためにサードパーティーに頼り、ITスタッフが他の戦略的優先事項に集中できるようにしています。マルチクラウドを利用する方法は、IT運用の複雑さを増す可能性があります。拡張性の向上、コスト削減、柔軟性などのメリットは、組織が不可欠なビジネス・アプリケーションを使用して競争上の優位性を高めるのに役立ちます。

クラウド・プロバイダーとインフラストラクチャー間のアプリケーションの単一ビューは、複雑性を管理し、洞察を高め、AIなどの技術的なメリットにより投資収益率 (ROI) を高めるのに役立ちます。

Kyndrylをお勧めする理由

クラウドを使用したデジタル変革の加速は、技術革新を求めて企業が注力する主要領域です。ほとんどの組織は、将来のクラウド環境は、ハイブリッドとマルチクラウドの両方だと考えています。ハイブリッドを利用する方法では、クライアントはプライベート、専用、およびパブリッククラウドのインフラストラクチャー全体でアプリケーションを実行します。マルチクラウドを使用する方法では、複数のクラウド・プロバイダーを利用して、幅広いエンタープライズ・ワークロードをサポートします。ハイブリッド・マルチクラウドIT環境の管理についてのKyndryl™の視点は、有効なワークロード、素晴らしいユーザー・エクスペリエンス、アプリケーション・レベルのSLAと一貫性をお客様に提供するための戦略に基づいています。このサービスとソリューションにより、Kyndrylは、お客様がジャーニーのどの地点にしようとも、お客様のデジタル変革を加速し、クラウド変革、リスクの最小化、および既存投資の活用を通して、ビジネス価値を提供できます。

エンタープライズ・アプリケーション管理は、増加するクラウド・プロバイダー間でのエンタープライズ・リソース・プランニング (ERP) アプリケーションを管理するのに役立ちます。Kyndrylは、専門知識とビジネス・ソリューションを結び付けて、次のビジネス目標の達成を支援します。

- 消費者の行動とセキュリティ脅威への洞察を提供する。
- グローバルなサプライ・チェーンとデマンド・チェーンをつなげる。
- ビジネスのベスト・プラクティスをお客様中心のアプローチに変革する。
- 販売を促進する。
- 製品開発を加速する。
- 一貫したグローバルな料金体系とオフリングを実現する。

クラウド・プラットフォームから独立した単一のポータル・ビューを提供することにより、Kyndrylはマルチクラウド環境の管理を簡素化し、統合されたセキュリティでアプリケーション・データの保護を支援します。世界中のデリバリー・チームに支えられて、Kyndrylソリューションは世界中で総合的なサポートを提供します。

Kyndrylをお勧めする理由

キンドリルには、世界に必要な不可欠なテクノロジー・システムをデザイン、構築、運用する豊富な専門知識があります。私たちは、社会を成長へと導く重要なインフラストラクチャーを発展させることに全力を尽くします。私たちは、新たな方法でシステムを作り出すことで優れた基盤を構築しています。適切なパートナーを選定し、ビジネスに投資し、お客様とともに課題に向き合い、新たな可能性を解き放ちます。

[詳細はこちらから →](#)

kyndryl

© Copyright Kyndryl Inc. 2021

キンドリルジャパン合同会社

〒103-0015

東京都中央区日本橋箱崎町19-21

Kyndryl は、米国もしくはその他の国における Kyndryl Inc. の商標または登録商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ Kyndryl Inc. または他社の商標である場合があります。本資料は発行時点で最新のものであり、キンドリルが随時予告なしに変更する可能性があります。キンドリルが事業展開するすべての国で、全製品もしくはサービスが利用できるわけではありません。キンドリルの製品およびサービスは、提供されている契約書の条件および制約に基づき保証されます。記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的のみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。キンドリルの製品およびサービスは、提供されている契約書の条件および制約に基づき保証されます。